

ウォーターフォール開発にアジャイルの風を！

～アジャイルプラクティスの実践でチーム力を引き出す～

2025年10月23日

ニッセイ情報テクノロジー株式会社



吉田 圭吾 (よしだ けいご)

ニッセイ情報テクノロジー株式会社 新卒入社5年目

役割：チームのサブリーダー

業務：窓販商品システムの保守開発

趣味：ゲーム、作曲、弾き語り、アニメ

座右の銘：百折不撓



中野 安美（なかの やすみ）

Agility Design株式会社 代表取締役

一般社団法人アジャイル経営カンファレンス 実行委員長

Techzen Co.,Ltd（ベトナム・ダナン）コンサルタント

仕事：アジャイル導入のコンサルティング／コーチング／研修、
新規事業創出の伴走、組織の働き方変革支援、女性リーダー育成

経歴：ニッセイ情報テクノロジー株式会社にて、生命保険会社向けシステム
開発、リスク管理、R&Dなどを経験

好きなこと：ワイワイ飲むこと、ゴルフ、運動

大事にしていること：何事もワクワク楽しむ！

目次

1. 背景

2. 改善したいこと

3. 改善策を導き出した経緯

4. 改善策の内容

5. 改善策の実現方法

6. 改善による変化や効果

7. まとめ

8. 今後に向けて

1. 背景

育成・協働・コミュニケーション活性化を見直し、保険開発人材の成長を推進する環境を醸成することが重要であった

若手社員の育成

協働

コミュニケーション活性化

現状

①コミュニケーションロス

②作業状況の把握が困難

③特定メンバーへの業務集中

④組織課題の改善

⑥知識・ノウハウ不足

⑤チーム運営が未整備

2. 改善したいこと

- 1 開発チームのコミュニケーション、チームの一体感醸成
- 2 チーム内の作業状況の透明性
- 3 チームの自立性と協働体制
- 4 内製化の実施による若手社員の業務知識向上
- 5 属人化と、特定の人に作業が集中する状況
- 6 目の前の作業に没頭しすぎて、チームとしての課題に感じていること等の改善が進まない状態



今回は、上記を改善するために取り組んだことについて説明する

3. 改善策を導き出した経緯

過去にアジャイル研修を受講し、その中でウォーターフォール開発における課題に対してアジャイルの考え方やプラクティスを部分的に取り入れた改善を具体化することを考えた

ポイント

**ウォーターフォール開発の枠組みを維持しながらも、
効果が出やすいアジャイルプラクティスを選定**

導入にあたっては、アジャイルコーチの伴走支援を受けながら、
スクラムイベントや改善活動を実践し、

徐々にチームが自立的に取り組めるような体制を構築することを目指した



4. 改善策の内容

ウォーターフォール開発においても、以下項目について高めることを目指した

項目	目指す状態
チームの自立化促進	<ul style="list-style-type: none">• チームが自立的に最適な仕事の進め方を考えられる• 起きている状況をもとに、課題や変化に柔軟に対応しながらゴール達成ができる
仕事の見える化	<ul style="list-style-type: none">• miroを活用してチーム状況の透明性を高める• 常に最新のタスク状況がわかる状態とする
カイゼン活動	<ul style="list-style-type: none">• 週次のふりかえりで問題点を解決• チーム全体の成長とコミュニケーションを促進する
チームワーク向上	<ul style="list-style-type: none">• 個人ワークからチームワークへ働き方を変える• メンバーが協働している
ファシリテーション向上	<ul style="list-style-type: none">• チームの合意形成を支援する中で、ファシリテーションスキルを向上する

5. 改善策の実現方法

従来から実施していた朝会(30分)をスクラムイベントを適用した運営へと見直し

〔従来〕	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	合計時間
実施イベント	朝会	朝会	朝会	朝会	朝会	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ タスク状況確認、課題の共有 					
所要時間	30分	30分	30分	30分	30分	150分

1週間の運営

1週間を「計画」⇒「日々の状況確認」⇒「振り返り」でサイクルをまわす

〔見直し後〕	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	合計時間
実施イベント	プランニング (計画)	デイリースクラム (日々の状況確認)	デイリースクラム (日々の状況確認)	デイリースクラム (日々の状況確認)	レトロスペクティブ (振り返り)	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1週間のチームゴールを設定 ・ 1週間のタスク確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前日の状況確認 ・ 課題の共有 ・ 今日やる事確認 			<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール達成状況の確認 ・ ふりかえりと改善 	
所要時間	45分	15分	15分	15分	60分	150分

6. 改善による変化や効果

1. チームの自立化促進

- ・ 自らがサインアップ（自己申告）してタスクをとるようになった
- ・ 負荷の高いチームメンバーを助ける動きが発生

2. 仕事の見える化

- ・ チームの状況がわかりやすくなった

3. カイゼン活動

- ・ チーム内のコミュニケーション、仕事の進め方の改善

4. チームワーク向上

- ・ 自分が担当するもの以外の状況の理解
- ・ チームメンバーのコミュニケーションが活発化

5. 若手の開発スキル向上・自立化

- ・ 自発的にタスクを選択し、互いにフォローし合う姿勢が定着
- ・ 個々の業務に対する責任感や主体性が向上

6. 業務改善への意識向上

- ・ 既存の設計ドキュメントや開発プロセスにとらわれない改善提案
- ・ 柔軟かつ前向きに改善活動を進められる環境の整備

7. まとめ

組織全体の一体感の強化・心理的安全性
の高い組織への展開が加速

若手メンバーが
率先



改善活動の
成長サイクル



組織全体への
波及



ベテラン社員への
波及



8. 今後に向けて

チームから組織へ視点を拡張していきたい！



ご清聴ありがとうございました

ご清聴
ありがとうございました

